

大和地域における公共施設エリア再編行動計画（案）

1. 計画の目的

本行動計画は、大和地域における公共施設のエリア再編を進めるにあたり、諸課題を整理するとともに、課題解決に向けて市等が取り組む具体的な方策やスケジュール等を示し、市民・地域など関係者と情報の共有を図り、合意形成のもと、着実に公共施設の再編・再配置を進めることを目的とします。

2. 大和地域エリア再編の対象施設

郡上市公共施設適正配置計画における第3章「エリア別再編方針」では、大和地域のエリア再編を、『耐震基準を満たしておらず老朽化が顕著な「大和生涯学習センター」及び老朽化が進む「大和生きがいセンター」、夜間等に稼働率が低く有効活用を図る必要がある「郡上市役所大和庁舎」及び「大和保健福祉センターやまつつじ」を対象とした再編（エリア再編①）』と、『郡上市学校規模適正化計画案に基づく「今後10年の間に統合を目指す学校」である大和地域の4つの小学校と、老朽化が進み浸水想定区域内にある「郡上偕楽園」を対象とした再編（エリア再編②）』に区分し検討することとしています。

しかしながら、郡上偕楽園の移転については、令和3年度に「郡上偕楽園移転整備基本計画」を策定し、大和第一北小学校跡地を候補地として選定したことから、エリア再編②において検討する事項が、統合や移転により遊休施設となる現在の学校及び郡上偕楽園の跡施設活用のあり方に限定されることとなりました。

このため、大和地域におけるエリア再編については、対象施設を下記のとおりとし、本行動計画でまとめて示すこととします。

（1）施設の状況

施設名	施設分野	築年数 (年)	延床面積 (㎡)	今後の方針	
				機能	施設
①郡上市役所大和庁舎	市庁舎・支所等	31	5,032.34	継続	継続
②大和生涯学習センター	公民館、生涯学習施設	43	1,778.47	移転	廃止
③大和生きがいセンター	子育て支援施設（児童館等）	37	280.09	移転	廃止
④大和保健福祉センター やまつつじ	保健施設	25	2,070.48	検討	検討
⑤大和北小学校	小中学校	17～43	3,822.00	継続	継続
⑥大和南小学校	小中学校	39～46	2,633.00	統合	検討
⑦大和第一北小学校	小中学校	30～36	2,552.00	統合	検討
⑧大和西小学校	小中学校	34～35	2,699.00	統合	検討
⑨郡上偕楽園	養護・特別養護老人ホーム、 老人保健施設	24～39	4,688.60	継続	建替

※公共施設適正配置計画より。築年数は、2019年（令和元年）現在

(2) 各施設の機能と概況

①郡上市役所大和庁舎

地域の行政サービスの機関として、また、地域防災の中核機能、地域振興の拠点としての役割を果たしています。

施設構成		執務スペース、会議室、防災研修室、資料室などで構成 社会福祉協議会、市民協働センター、商工会が入居
業務内容		○住民票、印鑑証明、戸籍謄本、課税・納税証明など諸証明の発行 6,700 件 ○年金、福祉などの相談、手続き業務 ○地域振興 ○団体事務局（やまとふれあい祭り、郡上長良川夢花火など） ○建設関係維持・修繕・除雪対応 ○農業関連（中山間、多面的機能直接支払等）相談、手続き ○獣害対策対応（捕獲の確認） ○商工・観光の問い合わせ対応、補助金手続き ○施設利用手続き業務 ○指定金融機関（めぐみの農協）による収納業務
【施設の概況】	構造	○鉄筋コンクリート造 3 階建て、延床面積 3,835 ㎡ ○車庫、機械室等 計 4 施設：延床面積 1,198 ㎡ ○昭和 63 年に新耐震基準で建設した建物で、建築から 31 年が経過し施設及び設備の老朽化が進行
	利用時間	○開庁日・開庁時間は、年末年始（12 月 29 日～1 月 3 日）と土日祝日を除く毎日 8 時 30 分から 17 時 15 分まで ○開庁時間外に会議等での利用あり（市主催会議・入居団体主催会議のみ）
	管理・運営	○管理運営は直営 ○管理運営費は、人件費を含め年間約 18,200 千円 ○施設使用料等として約 2,000 千円の収入 ○会議室の貸出による一般利用は年間 15 回で、施設使用料として 54 千円の収入
	施設内の機能	○201 会議室を大和南公民館（地区館）として位置づけ

②大和生涯学習センター

生涯学習の拠点として、大和地域公民館及び図書館を設置し、各団体の活動の場となっており、各種サークル活動、団体の会議等に利用されています。

施設構成		施設全体を大和地域公民館として位置づけ、図書館機能を併設 大会議室、中会議室、小会議室、学習室、和室①②、創作室、芸能練習室で構成
業務内容		公民館、図書館、貸館機能
【施設の概況】	構造	○鉄筋コンクリート造 2 階建て、延床面積 1,779 ㎡ ○昭和 51 年に旧耐震基準で建設した建物で、建築から 43 年が経過し施設設備の老朽化が進行
	利用時間	○開館日・開館時間は、原則として年末年始（12 月 29 日～1 月 3 日）と月曜日を除く毎日 9 時 00 分から 22 時 00 分まで
	管理・運営	○管理運営は直営 ○管理運営費は、人件費を含め年間約 18,100 千円 ○施設使用料として約 780 千円の収入
	施設内の機能	○大和地域公民館のほか、大和北公民館（地区館）としても位置づけ
	その他	○敷地面積：11,340 ㎡、このうち借地面積 2,042 ㎡

③大和生きがいセンター

大和地域の子育て拠点として設置し、民間団体が子育て支援事業を展開しています。

施設構成		ホール、和室、事務室で構成
業務内容		子育て親子の交流、子育て相談・援助、子育て関連情報の提供、諸サークルのサポート
【施設の概況】	構造	○鉄筋コンクリート造 1 階建て、延床面積 280 m ² ○昭和 57 年に新耐震基準で建設した建物で、建築から 37 年が経過し老朽化が進行
	利用時間	○開館日・開館時間は、原則として、年末年始（小学校冬休み期間）と土日祝日、お盆（13 日～16 日）を除く毎日 10 時 00 分から 15 時 00 分まで（現在は、10 時 00 分から 14 時 30 分まで）
	管理・運営	○管理運営は直営 ○管理運営費は、人件費を含め年間約 2,326 千円 ○施設使用料等として 5 千円の収入
	施設内の機能	○平成 28 年 9 月 1 日から民間団体「バンビの森」が子育て支援事業を展開
	その他	○敷地面積：1,600 m ² （全借地）

④大和保健福祉センターやまつつじ

市の保健施策の企画・立案を行う拠点保健センターとして機能しているほか、大和地域住民への健康診断や健康相談、母子保健事業、高齢者の介護予防の運動教室を実施し、保健師・管理栄養士及び事務職員が常駐しています。

デイサービスセンター部分については、社会福祉協議会による指定管理者制度により管理運営しています。

施設構成		健康課：会議相談室、小会議室、相談室、交流室、機能回復訓練室、和室、集団指導室、歯科指導室、検査消毒室、診療室、個別相談室、栄養指導室で構成 社会福祉協議会：日常動作訓練室、和室、休養室などで構成
業務内容		健康課の北部拠点 保健センター機能：住民健診、各種相談、研修、介護予防教室などを実施 社会福祉協議会のケアマネジャー事務室
【施設の概況】	構造	○デイサービスセンターを併設する施設 ○鉄筋コンクリート造 1 階建て、延床面積 1,985 m ² （渡り廊下等含む） ○車庫 延床面積 85 m ² ○平成 6 年に新耐震基準で建設した建物で、建築から 25 年が経過
	利用時間	○開館日・開館時間は、原則として年末年始（12 月 29 日～1 月 3 日）と土日祝日を除く毎日 8 時 30 分から 17 時 15 分まで
	管理・運営	○管理運営は直営（デイサービスセンター部分は指定管理） ○管理運営費は、人件費を含め年間約 5,500 千円 ○施設使用料として約 3 千円の収入
	施設内の機能	○保健師・管理栄養士及び事務職員が常駐し、健康診断や健康相談などを実施しているほか、高齢者の介護予防のための運動教室も実施

⑤大和北小学校

剣、口大間見、大間見、小間見、名皿部の5自治会で校区を構成する小学校です。

施設構成		校舎、体育館
業務内容		義務教育小学校
【施設の概況】	構造	○校舎は、鉄筋コンクリート造2階建て、延床面積2,845㎡。昭和56年に旧耐震基準で建設した部分（築38年経過）と、平成14年に新耐震基準で建設した部分（築17年経過）が混在し、旧耐震部分は平成26年に耐震補強工事を実施。 ○体育館は、鉄筋コンクリート造平屋建て、延床面積713㎡。昭和51年に旧耐震基準で建設した建物で、建築から43年が経過。平成22年に耐震補強工事を実施。 ○渡り廊下、プール専用付属室（2施設） 計3施設：延床面積264㎡。
	【児童数の推移（人）】※H15年度は合併時、R11年度は適正配置計画策定時の見込み	
	年度	H15年度 H20年度 H25年度 H30年度 R4年度 R11年度
	在籍児童数	181 161 145 156 152 125
	H15年度との比較	▲20 ▲36 ▲25 ▲29 ▲56
	【使用教室（普通教室は学級数）の推移（室）】※R11年度は適正配置計画策定時の見込み。	
【施設の概況】		H20年度 H25年度 H30年度 R4年度 R11年度
	普通教室	7（1） 7（1） 7（1） 7（1） 6
	特別教室	7 7 7 7 7
	※（ ）内は特別支援学級の数（内数）	
学校以外での利用	学校以外での利用	○校舎の一部（多目的室）を放課後児童クラブで利用 ○体育館は、夜間・休日に地域開放
	その他	○敷地面積：14,200㎡（うち校庭面積6,700㎡）

⑥大和南小学校

徳永、河辺（一部）、口神路、中神路、牧、下古道、上古道、下栗巣、上栗巣の9自治会で校区を構成する小学校です。

施設構成		校舎、体育館
業務内容		義務教育小学校
【施設の概況】	構造	○校舎は、鉄筋コンクリート造3階建て、延床面積1,840㎡。昭和48年（S55年一部増築）に旧耐震基準で建設した建物で、建築から39年から46年が経過。平成12年と平成27年に耐震補強工事を実施。 ○体育館は、鉄筋コンクリート造平屋建て、延床面積684㎡。昭和55年に旧耐震基準で建設した建物で、建築から39年が経過。平成27年に耐震補強工事を実施。 ○渡り廊下、プール専用付属室、倉庫 計3施設：延床面積109㎡。
	【児童数の推移（人）】※H15年度は合併時、R11年度は適正配置計画策定時の見込み	
	年度	H15年度 H20年度 H25年度 H30年度 R4年度 R11年度
	在籍児童数	136 120 104 110 87 54
	H15年度との比較	▲16 ▲32 ▲26 ▲49 ▲82
	【使用教室（普通教室は学級数）の推移（室）】※R11年度は適正配置計画策定時の見込み。	
【施設の概況】		H20年度 H25年度 H30年度 R4年度 R11年度
	普通教室	6 6 7（1） 7（1） 5
	特別教室	6 6 6 6 6
	※（ ）内は特別支援学級の数（内数）	
学校以外での利用	学校以外での利用	○体育館は、夜間・休日に地域開放
	その他	○グラウンド及び体育館は土砂災害警戒区域（急傾斜地）に含まれる ○敷地面積：8,990㎡（うち校庭面積3,300㎡）、このうち借地面積：432㎡ ○駐車場：2,569㎡（全借地）

⑦大和第一北小学校

万場自治会で校区を構成する小学校です。

施設構成		校舎、体育館
業務内容		義務教育小学校
【施設の概況】	構造	○校舎は、鉄筋コンクリート造 3 階建て、延床面積 1,835 ㎡。平成元年に新耐震基準で建設した建物で、建築から 30 年が経過。 ○体育館は、鉄骨造平屋建て、延床面積 672 ㎡。昭和 58 年に新耐震基準で建設した建物で、建築から 36 年が経過。 ○プール専用付属室 1 施設：延床面積 45 ㎡。
	【児童数の推移（人）】※H15 年度は合併時、R11 年度は適正配置計画策定時の見込み	
	年度	H15 年度 H20 年度 H25 年度 H30 年度 R4 年度 R11 年度
	在籍児童数	42 53 53 48 41 36
	H15 年度との比較	11 11 6 ▲1 ▲6
	【使用教室（普通教室は学級数）の推移（室）】※R11 年度は適正配置計画策定時の見込み。	
【施設の概況】		H20 年度 H25 年度 H30 年度 R4 年度 R11 年度
	普通教室	4 5 6 (1) 5 (1) 6 (1)
	特別教室	6 7 7 7 7
	※（ ）内は特別支援学級の数（内数）	
学校以外での利用	学校以外での利用	○体育館は、夜間・休日に地域開放
	その他	○グラウンド及び体育館は土砂災害警戒区域（土石流）に含まれる ○敷地面積：14,755 ㎡（うち校庭面積 7,800 ㎡）

⑧大和西小学校

河辺（一部）、野口、洞口、落部、福田、場皿の 6 自治会で校区を構成する小学校です。

施設構成		校舎、体育館
業務内容		義務教育小学校
【施設の概況】	構造	○校舎は、鉄筋コンクリート造 3 階建て、延床面積 1,896 ㎡。昭和 59 年に新耐震基準で建設した建物で、建築から 35 年が経過。 ○体育館は、鉄筋コンクリート造平屋建て、延床面積 754 ㎡。昭和 60 年に新耐震基準で建設した建物で、建築から 34 年が経過。 ○プール専用付属室 1 施設：延床面積 49 ㎡。
	【児童数の推移（人）】※H15 年度は合併時、R11 年度は適正配置計画策定時の見込み。	
	年度	H15 年度 H20 年度 H25 年度 H30 年度 R4 年度 R11 年度
	在籍児童数	76 108 107 55 43 39
	H15 年度との比較	32 31 ▲21 ▲33 ▲37
	【使用教室（普通教室は学級数）の推移（室）】※R11 年度は適正配置計画策定時の見込み。	
【施設の概況】		H20 年度 H25 年度 H30 年度 R4 年度 R11 年度
	普通教室	6 6 6 4 5
	特別教室	8 7 7 7 7
	※（ ）内は特別支援学級の数（内数）	
学校以外での利用	学校以外での利用	○体育館は、夜間・休日に地域開放
	その他	○校庭面積：10,597 ㎡（うち校庭面積 4,500 ㎡）

⑨郡上偕楽園

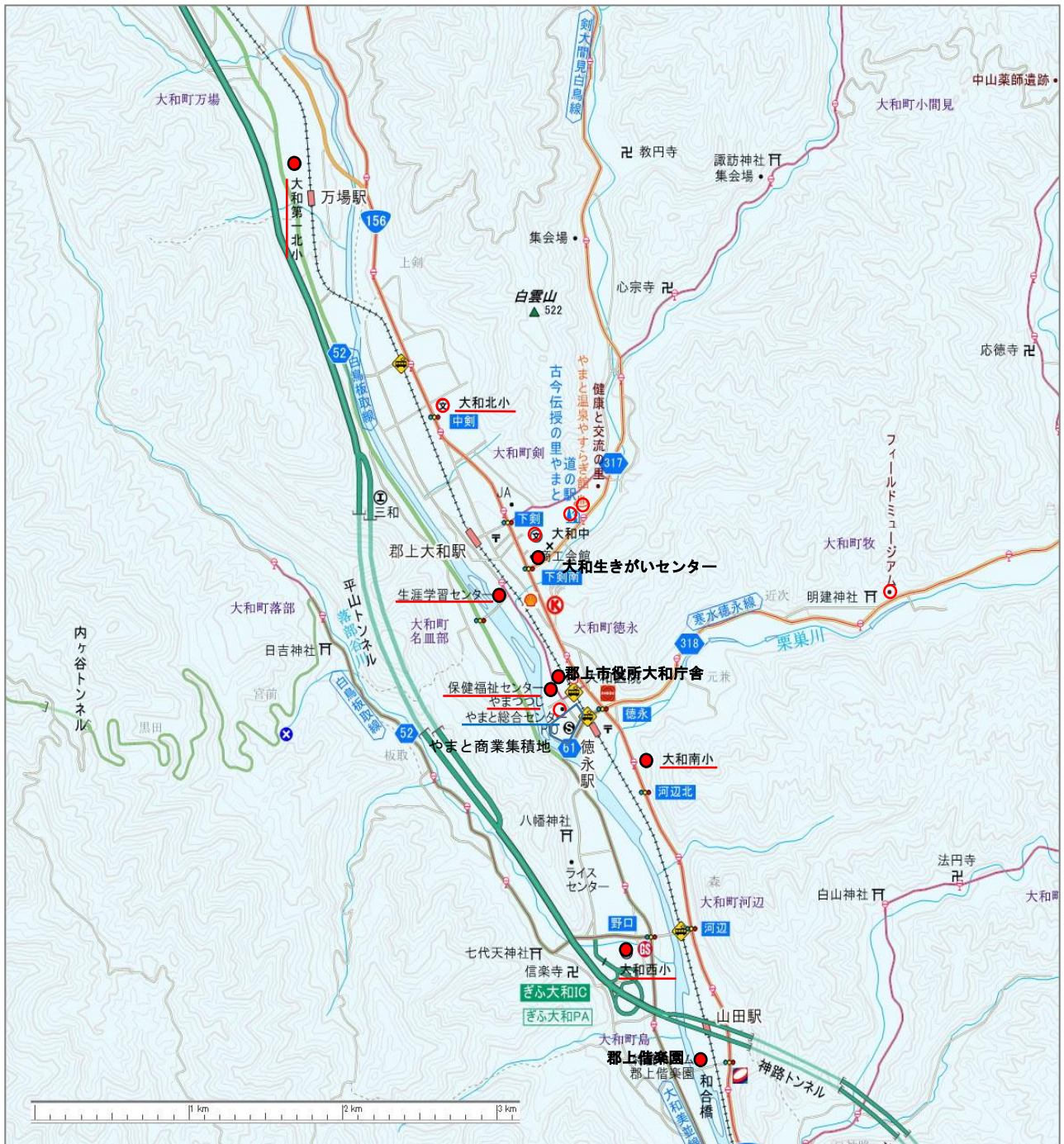
施設状況・施設構成	全 体：鉄筋コンクリート造 2 階建て、総延床面積 4,689 ㎡ 本館棟：昭和 55 年に旧耐震基準（診断の結果耐震補強不要）で建設した建物で、建築から 39 年が経過し、施設・設備ともに老朽化が進行（鉄筋コンクリート造 2 階建て、延床面積 3,457 ㎡） ■ 共用部（事務室、医務室、調理室、応接室 等） ■ 養護（居室 50 床、食堂、集会室、面会室、静養室 等） ■ 特養（50 床）ショート（12 床） 新館棟：平成 7 年に新耐震基準で建設した建物で、建築から 24 年が経過（鉄筋コンクリート造平屋建て、延床面積 1,232 ㎡） ■ 特養（30 床）ショート（8 床）
開設日・開設時間	24 時間・365 日
管理運営	○直営 ○管理運営費（人件費含む） 養護老人ホーム：62,600 千円 ※入所者負担金等の収入 11,800 千円 特別養護老人ホーム（ショーツステイ含む）：414,700 千円 ※介護事業収入等（294,200 千円）、利用者負担金（79,700 千円）、繰越金を含む雑入（17,900 千円）など、収入計 391,800 千円）
実施内容	介護保険法の規定による介護老人福祉施設の運営、短期入所生活介護の提供 老人福祉法の規定による養護老人ホームの運営
利用状況	特養：延べ利用者 28,370 人/年、平均 77.7 人/日 ショート：延べ利用者 6,615 人/年、平均 18.1 人/日 * 令和 3 年度実績による。 養護：R4.4.1 現在入所者数 22 人（うち市外からの措置者 2 人）
その他	○施設の設置場所は、浸水想定区域（1.0m以上～2.0m未満）に含まれる ○敷地面積：11,114 ㎡（うち本館棟使用面積 10,700 ㎡）、このうち借地面積 1,061 ㎡

3. 対象施設の立地状況

現在の和和庁舎周辺の徳永地区は、和和保健福祉センターやまつつじ、やまと総合センター、和和商業集積、徳永駅など、生活密着型機能が集積する和和町の中心地となっています。和和生涯学習センターは和和庁舎の北 700mに位置しグラウンドと隣接しています。和和生きがいセンターは国道 156 号線沿いにあり、アクセスしやすい立地となっています。

和和北小学校は、国道 156 号沿いにあり、アクセスしやすい立地となっており、和和庁舎の北 2.3Km に位置しています。和和南小学校は国道 156 号沿いにありアクセスしやすい立地となっており、和和庁舎の南 750mに立地しています。和和第一北小学校は、国道 156 号、県道に挟まれ、どちらからもアクセスできる立地となっており、和和庁舎の北 2.3Km に位置しています。和和西小学校は、県道近くに立地しており、和和庁舎の南 1.8Km に位置しています。

郡上偕楽園は、和和庁舎の南 2.5Km に位置し、国道 156 号、県道からのアクセス道は道幅が狭い状況となっています。



4. 課題の整理と対応方針

適正配置計画に示されている、各施設の課題と対応方針は以下のとおりです。

施設名	課題等	対応方針
郡上市役所大和庁舎	○余剰スペースとなっている2、3階部分の有効活用が課題。	●支所機能は継続し、施設は、予防保全を含め計画的な改修を行い、長寿命化を図る。改修にあたっては、会議室等の有効活用のあり方も含めて検討。 ●市民協働による窓口運営を継続。
大和生涯学習センター	○旧耐震基準の建築物であり、老朽化が顕著であることが課題。	●旧耐震基準の建物であり、老朽化が著しいことから、施設は廃止。 ●各種機能はやまつつじを軸に移転。
大和生きがいセンター	○施設の老朽化と、大和地域の子育て拠点機能の継続が必要。	●子育て支援機能は、地域内の他の公共施設へ移転し継続。 ●施設は、補助金適化法との関係を整理し廃止。
大和保健福祉センター やまつつじ	○北部地域の拠点保健センターとしての機能集約化に伴う健診や、訪問指導などの事業実施方法について検討が必要。 ○保健センターとしての利用状況を踏まえ、当該機能以外での時間的、空間的な使い切りが課題。 ○複合化・多機能化を検討する中で、開館日や閉館時間のあり方、管理運営の手法、受益者負担の適正化の検討が必要。	●市北部の拠点として保健センター機能を継続。加えて、他施設からの機能に移転し、複合化・多機能化を検討。 ●施設は、予防保全を含め計画改修を行い、長寿命化を図る。 ●複合化する機能に合わせ、開館日・開館時間、管理運営のあり方を検討するとともに、受益者負担の適正化を進める。
大和南小学校 大和北小学校 大和第一北小学校 大和西小学校	○いずれの学校も単学級若しくは一部複式学級のため、子どもたちの学習環境の向上や社会性の確保の観点から、望ましい教育環境を整えることが必要。 ○大和北小学校校舎を除く施設は建築から30年を超えており、施設・設備の老朽化が進んでいることから、統合後の学校施設については、計画的な改修が必要。 ○統合学校以外の既存の学校施設も耐震基準を満たしている。サウンディング型市場調査の手法などを駆使し、地域利用を含め民間活力の活用を図りながら有効活用の方法の検討が必要。	●複式学級の解消、1学年複数学級を実現のため、立地的な安全性、児童の通学時間、既存校舎の規模及び性能(4つの小学校で最も規模が大きく新しい)等の理由から、大和北小学校校舎等を使用し、新たな名称も含め統合小学校を再編。 ●統合小学校として使用する大和北小学校の校舎及び体育館等の施設は、児童数に対応する各種教室の確保やトイレの洋式化等、教育環境の向上につながるよう、増改築及び予防保全を含め計画的な改修を行い、長寿命化を図る。 ●大和南小学校、大和第一北小学校、大和西小学校の校舎・体育館は、教育施設としての用途は廃止。地域利用を含めた有効活用について、サウンディング型の市場調査手法等を用い調査研究を行う。
郡上偕楽園	○養護老人ホーム及び特別養護老人ホームとしての機能は、高齢者人口の増加により介護ニーズが高まっていることから、今後必要。 ○浸水区域内にあることから、他の場所への移転の検討が必要。 ○毎年一般会計から多額の繰り入れに依存した経営。移転後の施設の設置及び管理運営のあり方について、民間活力の活用を含め検討が必要。	●養護老人ホーム、特養養護老人ホームの機能は、大和地域内の安全な場所へ移転し継続。施設については、適正規模による建替えを含めて検討。 ●当面、直営での管理運営。移転後の施設の設置及び管理運営方法については、民間活力の活用を含め検討。

5. 適正配置計画における対応方針及び再編に向けての対応策（行動計画）

（１）再編シナリオ

上記の現状と課題、対応方針を踏まえ、適正配置計画では、次のとおり大和地域のエリア再編を進めることとしています。

【エリア再編① 生涯学習センター機能移転に伴う庁舎周辺のエリア再編】 ○大和生涯学習センターを廃止し、図書館・生涯学習センター機能について、やまつつじを軸に移転・複合化します。生涯学習センターの大会議室機能は、大和庁舎防災研修室、フィールドミュージアムよぶこどりで補完します。 ○大和生きがいセンターを廃止し、子育て支援センター機能を、やまつつじを軸に移転・複合化します。
【エリア再編② 小学校再編と郡上偕楽園建替えを含む施設の後活用】 ○大和北小学校、大和南小学校、大和西小学校、大和第一北小学校を統合し、大和北小学校校舎・体育館を統合小学校の施設として、増改築及び大規模改修を含む長寿命化を図り継続使用します。 ○統合後の大和南小学校、大和西小学校、大和第一北小学校施設は、学校用途を廃止するとともに、統合後の小学校跡地を候補地とし、郡上偕楽園を移転し、学校施設を活用したりリニューアル若しくは適正な規模での建替えを行います。 ○郡上偕楽園の候補地とならなかった小学校施設は、地域利用を含め「サウンディング型市場調査」等により、後利用に民間活力等を活用し、今後の有効活用の方法（除却・売却を含む）を検討します。

また、再編により、以下のことが期待できるとしています。

- ①老朽化施設の廃止及び施設の集約化により保有面積が減少し、将来の更新費用の縮減を図ることができる。
- ②施設の複合化・多機能化により、施設の有効活用と利便性の向上並びに管理運営コストの削減が期待できる。
- ③大和庁舎周辺に生涯学習センター機能を配置することで、地域課題を解決する上での中心的な役割が集積され、まちづくりのコーディネーターである振興事務所の機能強化につながる。
- ④小学校によっては複式学級が解消されるとともに、全体として1学年複数クラスの学級編成が可能となり、子どもの社会性の向上や教育環境の向上が期待できる。
- ⑤学校移転に伴い郡上偕楽園の移転場所が確保できる。
- ⑥用途廃止後の学校施設については、民間活力の活用を図ることで、公共施設の有効活用が可能になるとともに、新たなにぎわいづくりが進み、地域の活性化につながる。

特に、上記③については、別途市が策定した「小さな拠点とネットワーク」（概論：平成30年度策定、ガイドブック：令和元年度策定）における「地域のまちづくりの活動拠点」の形成を進める上で重要な役割を果たすことになります。

（２）再編に向けての検証

大和地域の公共施設の再編にあたり、旧耐震基準の施設で、老朽化が顕著な大和生涯学習センターと、耐震基準は満たしているものの、施設の老朽化が進んでいる大和生きがいセンターについて、機能面や立地を含めた施設の状況、財政面等の観点から移転先について検証し、再編の方向性を示します。また、統合により遊休施設となる学校及び郡上偕楽園の跡施設についても検討の対象とします。

なお、検討の結果、現時点で解決に至っていない課題や、新たに生じた課題については、改めて事業計画を作成する段階で対応します。

I 大和生涯学習センター

大和生涯学習センターは、大和地域における生涯学習拠点（図書館機能含む）として機能し、市民の学習活動や自主的な活動の場を提供してきましたが、今後は、こうした役割に加え、地域が自主的に地域課題を解決するための学習活動や実践活動を行う場としての役割が求められています。また、図書館についても、市民へ資料の提供や情報収集などを支援する役割を担ってきましたが、今後は、地域課題の解決に取り組むために必要な情報提供を行う役割が求められるとともに、滞在型の図書館ニーズにも応えていくことが必要になっています。

エリア再編①の基本方針では、「大和生涯学習センターを廃止し、図書館・生涯学習センター機能について、やまつつじを軸に移転複合化します。生涯学習センターの大会議室機能は、大和庁舎防災研修室、フィールドミュージアムよぶこどりで補完します」としており、移転の可能性について検証します。

【大和生涯学習センターの状況】

大和生涯学習センターは、大和地域公民館に位置付けられており、公民館専任主事2名が常駐し、事業を企画するほか、各地区公民館が実施する事業の助言・補助や指導を実施しています。公民館主催講座としては、6講座を9回開催し、延べ125人が参加しています。講座内容は趣味や生きがい活動が中心で、地域課題の解決を図るための学習活動や実践活動での利用は今後の課題となっています。

○実施講座（図書館講座を含む）の内容、参加者数 <令和元年度実績＝以下同様>

講座名	回数・参加者数	受講料・会場
クラフトバック作り教室	4回・15人（延58人）	1,600円(4回分)・創作室
みそ作り教室	1回・14人	1,900円・やまつつじ
もち花づくり教室	1回・11人	1,200円（木台500円含む）・創作室
夏休み短歌教室	1回・16人（小学生） 中学生ボランティア	無料・フィールドミュージアム
古布人形作り	1回・13人	1,000円・和室
冬の寄せ植え教室	1回・13人	2,000円・道の駅
図】ハーブで石鹸をつくろう	1回・15人	300円・図書館
図】折り紙教室	1回・14人	無料・図書館
図】葉っぱの骨を使ってキーホルダーを作ろう	1回・15人	300円・図書館

生涯学習センターの施設の利用状況は次のとおりです。このうち自主サークル活動として、吹奏楽サークルなど28団体が年間約570回利用し、延利用者数は約4,500人となっています。諸室の稼働率は低く、利用の約半数が夜間利用となっています。

○生涯学習センター部屋別の利用内容

部屋名	定期利用		単発利用	
	内容	利用団体	内容	利用団体
芸能練習室	サークル	吹奏楽団、太極拳、日本舞踊 等		
創作室	サークル	木彫、絵画、活け花、古文書 等	サークル、会議、研修、販売 等	障がい者の集い、公民館活動、物品販売 等
和室 1	サークル	日本舞踊、ワダン、人形作り	サークル、会議	高齢者団体集い、子育て支援相談
和室 2	サークル	囲碁、舞踊	サークル、会議	高齢者団体集い、子育て支援相談
大会議室	サークル	ワダン、日本舞踊 他	サークル、会議、研修、健診、販売 等	業界団体総会、子育て支援サークル 他
中会議室	サークル	短歌サークル、古文書、障がい者の集い	サークル、会議、研修、健診、販売 等	業界団体総会、各種団体会議・研修 他
小会議室	サークル	吹奏楽、障がい者の集い	サークル、会議、研修、健診、販売 等	業界団体総会、各種団体会議・研修 他
学習室			個人学習	中学生・高校生

○生涯学習センターの部屋別の利用状況（開館日 302 日・利用可能コマ数 906）

部屋名	芸能練習室	創作室	和室 1	和室 2	大会議室	中会議室	小会議室	学習室	平均
利用コマ数	247	96	84	81	84	108	86	46	104
稼働率(%)	27.3	10.6	9.3	8.9	9.3	11.9	9.5	5.1	11.5
部屋面積(m ²)	92.0	38.9	27.3	27.3	260.0	58.5	34.0	27.5	

○生涯学習センター時間帯別の利用状況

時間帯	午前	午後	夜間	午前・午後	午後・夜間	計
利用コマ数	104	268	378	80	2	832
稼働率(%)	12.5	32.2	45.4	9.6	0.3	

図書館には、専任の事務員 1 名が常駐し、蔵書数は約 28,000 点。施設は図書室①（子ども向け）、図書室②（大人向け）、閉架書庫、作業場で構成しています。年間貸出冊数は約 29,000 冊、来館者は年間約 9,000 人となっています。親子連れ、高齢者の利用が多く、また、土日や休日、夏休み・冬休み期間に多くの利用があります。また、図書館イベント事業として、夏休み図書館教室などの講座を 5 回開催し、約 100 人が参加しているほか、毎週土曜日には絵本読み聞かせ会を実施し、毎回 10 人程度が参加しています。

ア 大和保健福祉センターやまつつじへの移転の可能性の検証

【大和保健福祉センターやまつつじの概況】

大和保健福祉センターやまつつじは、市の拠点保健センターに位置付けています。施設の延床面積は 2,070 m²で、1,547 m²を保健センターとして、523 m²をデイサービスセンターとして利用しています。このうち、デイサービスセンター部分は、別途検討を進める子育て支援機能で利用する施設の移転先として検討することになっていることから、生涯学習センター機能の移転先としては保健センター部分を対象とします。

保健センター部分は、会議相談室、小会議室、相談室、交流室、機能回復訓練室、和室、集団指導室、歯科指導室、検査消毒室、診察室、栄養指導室があり、健康課事務所として職員（正規職員 11 人、会計年度職員 4 人）が常駐しています。

保健センターでは、市の保健施策の企画・立案を行うとともに、大和地域の住民を対象に、健康診断（年 33 回）や健康相談（年 18 回）、乳幼児健診（6 日）、乳幼児相談・教室（年 30 回）、高齢者の介護予防教室（フレイル予防教室）を週 1 回行っています。また、毎週火曜日と金曜日には自主運動グループが利用しています。このほか、市内全域を対象とする相談事業として、自殺予防を目的とした臨床心理士等による相談事業（週 2 日）を行っています。

○大和保健福祉センターやまつつじ各部屋の配置と利用状況 <令和元年度実績＝以下同様>

部屋名	利用回数	稼働率 (%)	貸出の可否	部屋名	利用回数	稼働率 (%)	貸出の可否
会議相談室	210	47.0	可 (現在コ-ピ-)	和室 (50 帖)	105	24.0	可
小会議室	362	81.0	可 (現在コ-ピ-)	集団指導室(1)	146	33.0	可
相談室	58	13.0	可	集団指導室(2)	115	26.0	可
交流室 1	276	62.0	否	歯科指導室	38	9.0	可(診療台撤去必要)
交流室 2	258	58.0	否	検査消毒室	52	12.0	否
機能回復訓練室	228	51.0	否	診療室	32	7.0	否(診療機器有)
和室 (25 帖)	114	26.0	可	栄養指導室	56	13.0	可(調理台有)

令和 2 年度からは新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、施設の規模や諸室の状況、立地条件から、新型コロナウイルスワクチン接種の集団接種会場として利用しているほか、令和 2 年 4 月からは母子保健法に基づく「郡上市子育て世代包括支援センター」を設置しています。

令和元年度の年間の延べ利用者数は約 6,600 人で、各部屋の利用状況は上表のとおりです。健診等の諸事業で使用する資機材を常時設置しているため、生涯学習の講座等で利用可能な部屋は「貸出の可否」が「可」となっている部屋となります。

【大和生涯学習センター機能の移転の可能性の検証】

次に、大和生涯学習センター（図書館を含む）の諸室で行われている活動が上記の貸出可能な部屋で実施できるか検証します。検証にあたっては、大和保健福祉センターで実施している健診等の諸事業を継続し、保健センターの業務に支障が生じないことを前提とします。

その結果、生涯学習センターの和室や小中会議室、学習室で行っている活動については、保健福祉センターが使用しない時間帯であれば利用可能（会議相談室、小会議室、相談室、和室、集団指導室、歯科指導室、栄養指導室）ではありますが、健診時は全館を使用するため、生涯学習機能として部屋を利用することができません。また、図書館は常設となるため、占有する部屋を確保することが困難なほか、生涯学習センターの芸能練習室や大会議室、創作室の替わりとなる部屋が大和保健福祉センターにはないため、大和庁舎の会議室を代替として利用を想定するものの、2 施設間で貸館業務が発生し、管理も複雑化するため合理性、利便性に欠けることとなります。

以上のことから、大和保健福祉センターやまつつじへの、生涯学習センター機能の移転は難しい状況です。

大和生涯学習センター		やまつつじ		否の場合の代替施設の想定 可とする場合の条件整備
部屋名	利用回数/ 昼間	利用諸室の想定	可否	
芸能練習室	247/102	—	否	大和庁舎書庫 (楽器等常設のため併用否)
創作室	96/34	—	否	大和庁舎 303 会議室 (創作専門で併用難)
和室 1 (利用者数 9 人)	84/21	和室 (2)	可	
和室 2 (利用者数 9 人)	81/75			
大会議室 (利用者数 200 人)	84/52	—	否	大和庁舎防災研修室
中会議室 (利用者数 20 人)	108/79	集団指導室 (1) 集団指導室 (2) 健診室	可	
小会議室 (利用者数 12 人)	86/46	歯科指導室	可	診察台撤去
学習室	46/45	介護相談室	可	
事務室 (26 m ²)	常設	1F ロビー	可	間仕切り等での部屋の整備
図書室① (94 m ²)	常設	—	否	大和庁舎 2 階
図書室② (52 m ²)				
閉架書庫 (9 m ²)				
作業場 (29 m ²)				

* 利用者数は、各部屋の最大利用者数

イ 大和庁舎への移転の可能性の検証

【大和庁舎の概況】

大和庁舎には、大和地域の行政サービス機能をはじめ、社会福祉協議会、市民協働センター、商工会、NPO 法人といった外部団体が入居しているほか、各種会議室を備えていますが、各部屋の利用状況は以下のとおりです。

○施設の利用状況 <令和元年度実績＝以下同様>

フロア	主な機能	内容
1 階	大和振興事務所	大和振興事務所執務室
	市民協働センター	市民協働センター事務室、(放課後児童クラブ事務所)
	商工会出張所	商工会事務室 (週 1 回利用)
	郡上森林組合	森林組合出張所 (R 2 退去)
	指定金融機関	めぐみの農協 (公金収納)
	NPO 法人事務室	NPO 法人の執務室 (不定期、月 1 0 日)
	防災会議室	食堂、各種会議
2 階	社会福祉協議会	社会福祉協議会執務室
	201 会議室	各種会議、南公民館として位置づけ
	防災研修室	各種会議・研修
3 階	301、302、303 会議室	各種会議
	防災倉庫	防災備蓄品倉庫
	和室	防災備蓄品倉庫
	書庫	市役所書類倉庫

○部屋ごとの利用状況（会議室部分・利用可能コマ数 720）

部屋名	市民 相談室	防災 会議室	201 会議室	防災 研修室	301 会議室	302 会議室	303 会議室	和室	平均
利用コマ数	25	39	116	77	88	85	149	11	74
稼働率(%)	3.5	5.4	16.1	10.7	12.2	11.8	20.7	1.5	10.2
部屋面積(m ²)	8.37	99.85	61.08	257.89	166.00	41.50	78.02	75.00	

【大和生涯学習センター機能の移転の可能性の検証】

現在の大和生涯学習センター（図書館を含む）の諸機能を維持することを前提に、生涯学習センターの諸室で行われている活動が、大和庁舎の諸室で受け入れることが可能か検証します。

大和生涯学習センター		大和庁舎			
部屋名	利用回数 ／昼間	利用の想定	現在の利用 状況	可否	必要な環境整備
芸能練習室	247/102	3F 書庫	書庫	可	書庫機能の移転、防音工事
創作室	96/34	305 会議室	防災備蓄倉庫	可	防災備蓄品の移動 水道設備の整備 机椅子設置
和室 1 (利用者数 9 人)	84/21	3F 和室	和室	可	なし
和室 2 (利用者数 9 人)	81/75				
大会議室 (利用者数 200 人)	84/52	2F 防災研修室	会議室	可	なし
中会議室 (利用者数 20 人)	108/79	応接室 201 会議室 301 会議室 303 会議室 旧議員控室	応接室 会議室 会議室 会議室 防災備蓄倉庫	可	応接セット移動、机椅子設置 なし なし なし 防災備蓄品の移動、机椅子設置
小会議室 (利用者数 12 人)	86/46	302 会議室 旧議長室 3F 資料室	会議室 書庫 書庫	可	なし 設備、書類の移動、机椅子設置 設備、書類の移動、机椅子設置
学習室	46/45	旧町長室	統計室	可	書類の移動、机椅子設置
事務室 (26 m ²)	常設	1F ロビー		可	間仕切り等での部屋の整備
図書室① (94 m ²) 図書室② (52 m ²) 閉架書庫 (9 m ²) 作業場 (29 m ²)	常設	2F 事務室 旧教育長室 203 会議室 耐火書庫	社協事務室 社協会長室 社協会議室 書庫	可	社協事務室機能の移転 本棚等の設置、間仕切り設置 書類の移動

* 利用者数は、各部屋の最大利用者数

(注) 社協＝社会福祉協議会

大和庁舎の会議室等は稼働率が低い状況となっていることから、生涯学習センター利用分を大和庁舎で受け入れることは可能です。ただし、生涯学習センターの利用は夜間が多いため、夜間利用に対する体制の整備が必要です。

【大和庁舎入居団体等の移転先の検討】

現在の大和庁舎の執務スペースや各種団体の入居者について、庁舎内での移動が可能か検証します。

現在の大和庁舎の状況		生涯学習センター機能の移転後の検証		
部屋名	面積 (㎡)	移動先の想定	可否	必要な環境整備
大和振興事務所執務室	231	現執務室 (面積縮小)	可	書類等の移動
社会福祉協議会事務所	154	協働C、商工会、 北側書庫	可	壁の撤去 各種回線の整備
市民協働センター	45	現執務室東側中	可	間仕切り壁の整備
商工会	38	現執務室東側	可	間仕切り壁の整備
NPO 法人	25	執務室の一角	可	執務室との分離
JA 窓口 (指定金融機関)	6	1F ロビー	可	間仕切り等で部屋を整備
防災備蓄倉庫	110	消防待機室、 無線室、1F 倉庫	可	書類、物品の移動 (車庫 2F 書庫を 想定)
書庫	206	検討中		

大和庁舎 1 階の大和振興事務所執務室は、面積的に余裕をもった利用をしていることから、コンパクトにすることで、現在入居している各種団体のスペースを 1 階内に確保することが可能です。これにより、空いた 2 階のスペースを図書館スペースとして確保することが可能となります。なお、受け入れにあたっては、利用団体の執務場所の移動、間仕切り壁の整備等の改修が必要となります。

ウ その他の検証

適正配置計画策定後に大和地域の小学校の統合と郡上偕楽園の移転が決まったことから、それら施設への移転の可能性についても検証しました。

【郡上偕楽園への移転の可能性の検証】

郡上偕楽園の跡施設 (旧館は除く) を生涯学習センターに転用 (移転) することとした場合、面積的には可能なものの、別添 (P31～32) のように多くの課題をクリアすることが必要となります。また、「大和保健福祉センターやまつつじ」の機能を「郡上偕楽園」に移転し、「やまつつじ」に「大和生涯学習センター」を移転した場合、二重の移転となり、郡上偕楽園の改修費も含めて多くの費用が必要となることから、移転は望ましくないとの結論に至っています。

【学校施設への移転の可能性の検証】

大和生涯学習センターには、これまでの生涯学習活動をはじめとする様々な学習活動のほか、今後は、地域課題を解決するための学習活動や実践活動の場としての機能が求められることから、まちづくり、地域づくりの拠点としての庁舎機能のある施設と至近な距離に配置されることが望まれます。学校施設に移転した場合、庁舎施設とは一定の距離があること、また、今後学校施設を民間の利活用を含む一体的な有効活用を検討していく中で、生涯学習機能を優先配置した場合に、結果的に未利用部分が生じる可能性があり、利活用検討の支障となりかねないことから、大和生涯学習センターの移転先の候補にすることは望ましくないとの結論に至っています。

生涯学習センター機能移転についての結論

以上の検証結果から、大和生涯学習センター機能の移転先は大和庁舎とし、施設の複合化を図ることとします。移転にあたり、利用日や利用時間の調整が必要となる場合がありますが、大和庁舎の2階、3階部分をリニューアルし、必要な諸室を確保することとします。また、講座等の実施により大和庁舎の諸室が不足する場合は、大和保健福祉センターやまつつじの業務に支障のない範囲でやまつつじの諸室を利用することで、大和生涯学習センターに必要な機能を確保することとします。

なお、エリア別再編計画では、当初、フィールドミュージアムよぶこどりを補完施設にしていたしましたが、今回の検証において庁舎周辺で必要な機能を確保できるものと見込まれることから、当面見送ることとします。

Ⅱ 大和生きがいセンター

大和生きがいセンターは、子育て拠点として機能していますが、少子化と核家族化が進む中、子育てに関する相談や援助、交流の機会、子育て関連情報の提供など、子育て支援機能の一層の充実強化が市の重要施策の一つになっています。

エリア再編の基本方針では、「大和生きがいセンターを廃止し、子育て支援センター機能を、やまつつじを軸に移転・複合化します。」としており、移転の可能性について検証します。

【大和生きがいセンターの状況】

大和生きがいセンターは、年末年始（小学校冬休み期間）とお盆（8月13日～16日）、土日祝日を除く毎日10時から15時まで開設し、管理運営は民間団体に委託しています。子育てに関する相談や援助、親子の交流の場の提供、子育てに関する講習会などを実施し、年間約5,700人が利用しています。

施設の延床面積は280㎡で、事務室・子ども服リサイクル、遊びの部屋、作業部屋兼倉庫で構成していますが、様々な活動を行うには手狭な状況となっています。また、子育て支援サークルの事務局は大和庁舎内にあり、母子保健事業を所掌する保健センターとも離れているほか、特に、令和2年度からは子育て世代包括支援センターが保健センター施設内に設置されていることを鑑みると、子育て支援機能のあり方について検討が必要となっています。

○活動状況 <令和元年度実績>

機能	内容
子育て支援	・子育てに関する相談・援助、親子の交流の促進、講習などを実施 ・年間約5,700人が利用 ・部屋の構成は、事務室・子ども服リサイクル（49㎡）、遊びエリア（113㎡）、物置兼作業部屋（38㎡） ・子育て相談・援助：40人が利用 （保育園の入園準備、離乳食など相談、相談に対する助言、子育て支援センターなどの紹介、つなぎ） ・親子の交流の促進：ママカフェ20回280組 イベント6回・129組が利用 （クリスマス会、ひな祭りなど季節の行事） ・定例会：12回（内容：1ヶ月の振り返り、来月の予定確認 注意、気に掛ける利用者の情報共有、相談内容・対応の共有）

ア 大和保健福祉センターやまつつじへの移転の可能性の検証

【大和保健福祉センターやまつつじの概況】

大和保健福祉センターやまつつじの延床面積は2,070㎡で、1,547㎡を保健センターとし

て、461 m²をデイサービスセンターとして利用しています。このうち保健センター部分については、先の検証で引き続き機能を継続する方向性を示していることから、ここでは、デイサービスセンター部分への移転の可能性について検証します。

デイサービスセンター部分は、現在、社会福祉協議会が指定管理者となり、デイサービス事業を週3回程度実施しているほか、ケアマネジャーの事務室として利用されています。

○現在の機能 <令和元年度現在>

フロア	主な機能	内容
社会福祉協議会 管轄	ケアマネジャー事務室 介護運動室	社会福祉協議会ケアマネジャー執務室 デイサービスセンターの運動エリア

【大和生きがいセンター機能の移転の可能性の検証】

現在の大和生きがいセンターの諸機能を維持することを前提に、大和保健福祉センターやまつつじのデイサービスセンター部分への受け入れを検証したところ、下記のとおり、現在の施設より利用面積が広くなることから、受け入れは可能です。

大和生きがいセンター		やまつつじ（デイサービスセンター部分：523 m ² ）		
部屋名	利用回数	利用の想定	可否	条件
事務室・こども服リサイクル（49 m ² ）	239	旧食堂、ホール、和室	可	間仕切り壁整備
遊びエリア（113 m ² ）	239	日常動作訓練室	可	なし
作業所兼倉庫（38 m ² ）	239	休養室、調理室	可	調理台等撤去

【デイサービスセンター部分（社会福祉協議会利用部分）の機能の移転先の可能性の検証】

●社会福祉協議会のケアマネジャーの事務室機能の移転先

デイサービスセンター部分で行っているケアマネジャーの事務室機能は、大和庁舎内に配置している社会福祉協議会（本部）の事務所へ移転・統合することが可能です。

●デイサービス事業の移転先

日常動作訓練室で実施しているリハビリの利用状況は、週3回程度で、利用者数は延べ3,900人、1日あたり15人となっています。これらは隣接するデイサービスセンターやまと内での実施が可能です。なお、デイサービスセンターの職員休養室については、大和保健福祉センターやまつつじ内の空きスペースを活用することで調整します。

大和生きがいセンター機能移転についての結論

以上の検証結果から、現在指定管理者が実施しているデイサービス事業や社会福祉協議会事務所等の移転先を確保することを前提に、大和生きがいセンター機能を大和保健福祉センターやまつつじのデイサービスセンター部分に移転することとします。

（３）大和生涯学習センター及び大和生きがいセンター機能移転のメリット

上記の結論から、図書館機能を含む生涯学習拠点機能を大和庁舎に、子育て拠点機能を大和保健福祉センターやまつつじへ移転した場合、以下のメリットが考えられます。

なお、移転後のレイアウト案は別図（P23～25）のとおりとなります。

i) 大和庁舎への移転のメリット

【大和庁舎の有効活用】

これまで稼働率が低かった会議室を公民館機能として利用することで、施設の有効活用ができます。また、庁舎が様々な活動の拠点となることから、本市が目指す「小さな拠点とネットワーク」におけるまちづくりの活動拠点として機能強化につながります。

【公民館機能の向上】

貸出ができる部屋が従来の8部屋から12部屋と1.5倍になり、様々な講座・サークル活動の開催が可能となります。また、これまで大和生涯学習センターにはエレベーターがなく、高齢者などの利用に支障をきたしていましたが、大和庁舎にはエレベーターが設置されているため、2階、3階への移動の負担が解消できます。

【図書館の機能向上】

現在の図書館スペースは、本を借りることが主となっていました。大和庁舎ではより広いスペースを確保できることから、親子が絵本を読めるエリア、図書館で読書を楽しめるエリアの確保が可能となります。また、大和庁舎が複合化することで来庁者も増えることから、図書館の利用者の増加も期待されます。

○図書館スペースの面積比較

部屋名	大和生涯学習センター	大和庁舎
開架・閲覧スペース	146㎡	267㎡
学習室	28㎡	39㎡
閉架スペース	9㎡	10㎡
作業場	29㎡	7㎡

ii) 大和保健福祉センターやまつつじへの移転のメリット

【大和保健福祉センターやまつつじの有効活用】

これまで一部分の利用はあったものの、利用頻度が低く、空きスペースもあったデイサービス部分について、有効活用ができます。

【子育て支援機能の充実】

大和生きがいセンターは、現在、子育て親子の交流の場、子育て等に関する相談・援助、講習の場となっています。子育て世代包括支援センターを併設する大和保健福祉センターやまつつじの施設内に移転することで、子育てに関する様々な相談や情報提供など、切れ目のない子育て支援施策の展開が可能となります。

また、現施設より面積も大きくなり部屋数も増えることから、小学校区ごとで活動している子育てサークル同士による合同イベント等の開催など、新たな活動も可能となります。なお、個別での相談も増加傾向にあることから、個室での相談も可能になり、子育て支援の充実が期待されます。

大和保健福祉センターやまつつじには大和生きがいセンター同様、フロア、和室があるほか、床暖房も整備されているため、これまでよりも快適な環境となり、駐車場も広いことから、これまで以上に多くの利用者を受け入れることもできます。

(4) 機能移転後の大和生涯学習センター、大和生きがいセンター施設の取扱い

大和生涯学習センターの施設は、耐震基準を満たしておらず老朽化が進んでおり、安全面を

考慮すると、機能移転後は転用等を行わず、除却（取壊し）します。

また、大和生きがいセンターも老朽化が著しいことから、機能移転後は転用等を行わず、除却します。

なお、両施設とも財産処分期間に残存期間があることから、除却の時期は今後検討します。

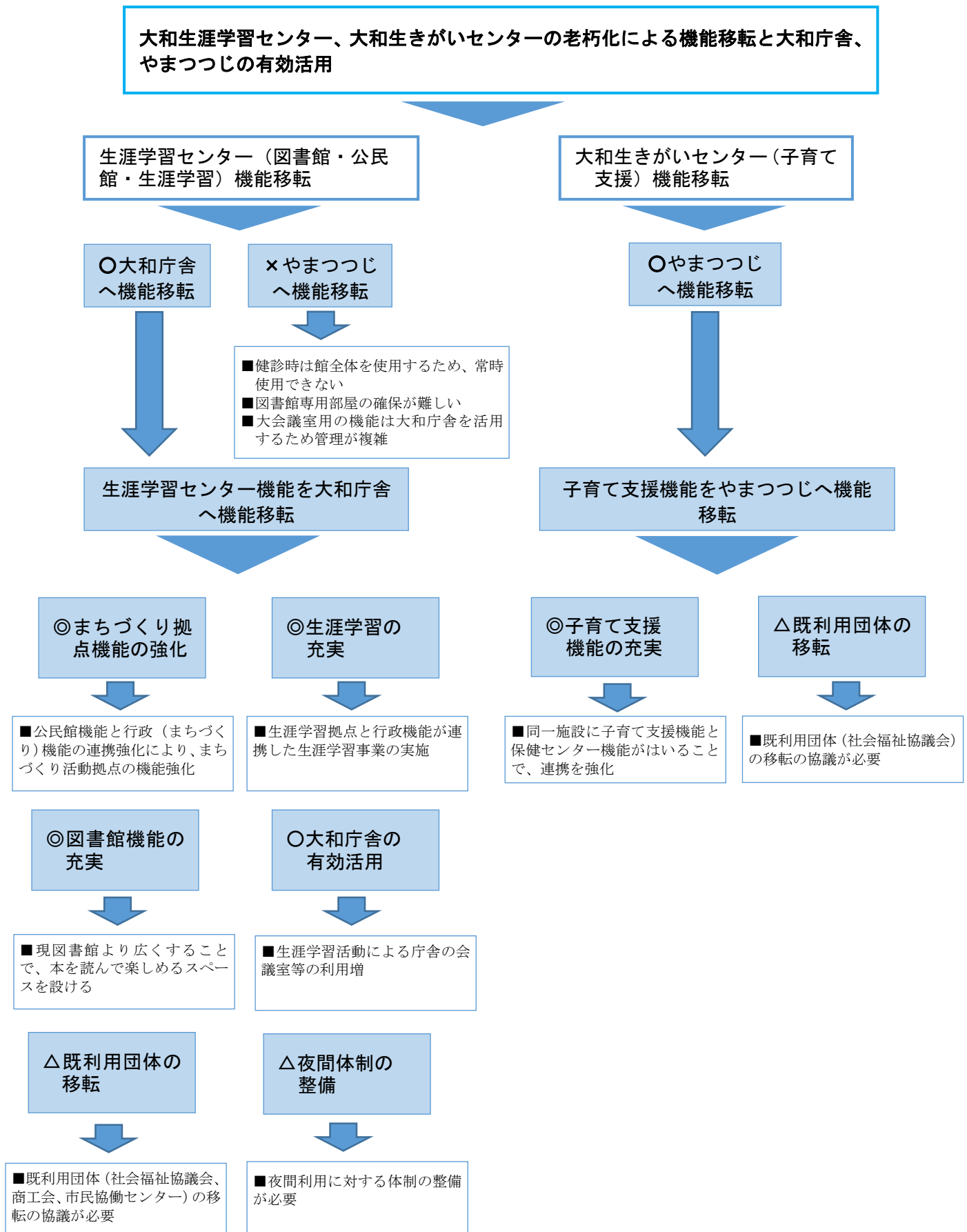
除却後の土地利用については、「郡上市公有財産の有効活用にあたってのガイドライン」に基づき、管理又は処分の方法を市全体で調整します。

（５）小学校の統廃合並びに郡上偕楽園の移転後の跡施設の利活用の検討

統合、移転により従来施設としての用途を廃止する施設は、建物・土地の利活用について、「郡上市公有財産の有効活用にあたってのガイドライン」に基づき検討することとします。

なお、公共施設マネジメントの基本理念である「施設総量の削減による将来負担の軽減を図る」ため、老朽化・耐震性能・利用効率等を勘案し、継続して利用することが望ましくない施設は解体・撤去することとします。

【概念図】



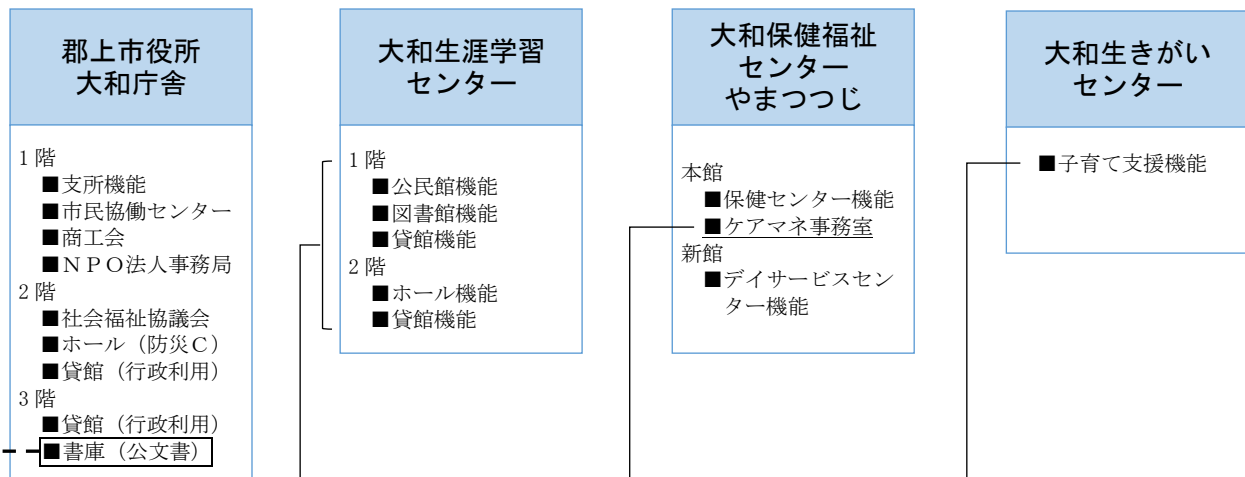
6. 再編（案）イメージと施設改修

大和生涯学習センター及び大和生きがいセンターの機能を、大和庁舎及び大和保健福祉センターやまつつじに移転する場合の再編イメージは以下のようになります。

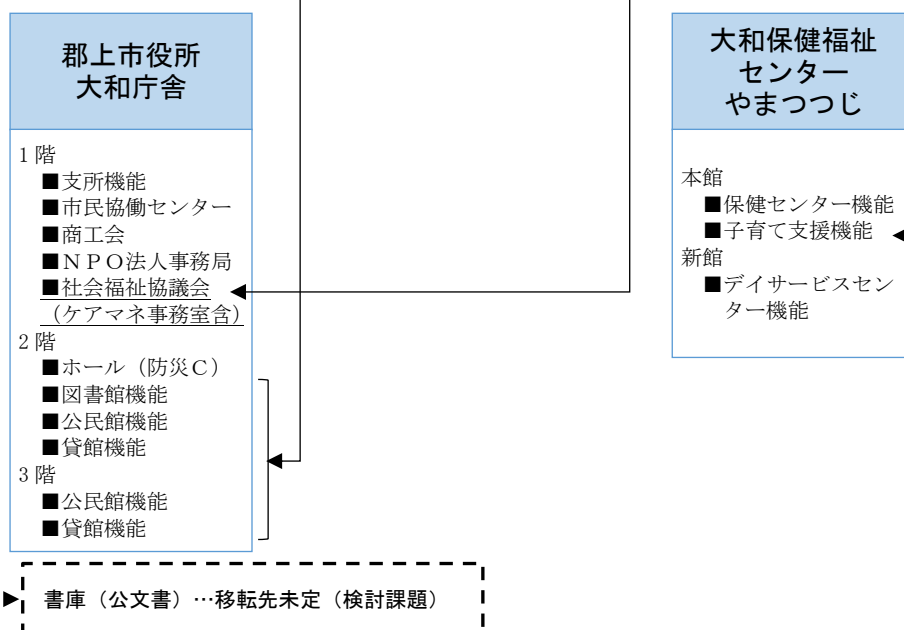
この結果、大和庁舎施設及び大和保健福祉センターやまつつじ施設の一部の施設改修が必要となります。

（１）再編イメージ

再編前



再編後



(2) 施設改修と移転計画の作成

大和庁舎は、大幅なレイアウトの変更が必要になります。具体的な改修計画や移転計画、及び必要な費用については、基本設計や実施設計後となりますが、その概要については以下のとおりです。

また、大和保健福祉センターやまつつじについては、専用入り口の設置及び、入居部分のレイアウト変更が必要ですが、これらも基本設計や実施設計後に具体的な改修計画及び費用算出を行います。

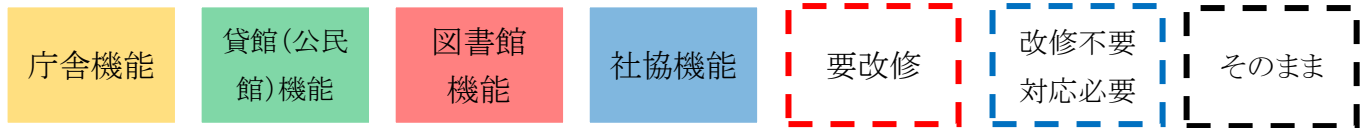
i 大和庁舎レイアウト概要

分類	レイアウト概要
公民館事務局・夜間受付	玄関ロビーの一部を改修（仕切り）し、部屋を設け、公民館事務局、夜間受付として整備します
図書館機能として必要なスペースの確保	⇒2階を改修することで可能となります
夜間セキュリティの確保	夜間利用へ対応するため、夜間の執務室、図書館への立ち入りを制限する必要があります。 ⇒シャッター等を設置することで対応できます
音を出す活動への対応	⇒3階書庫を改修することで可能となります
水を使用する活動への対応	⇒305会議室を改修することで可能となります
社会福祉協議会事務所	1階北側部分（市民協働センター、商工会、J A 窓口、書庫）を事務所として整備します ⇒市民協働センター、商工会、J A 窓口、書庫を施設内で移転することで対応できます
市民協働センター・商工会・書庫	1階南側東部分を事務所として整備します ⇒大和振興事務所部分をコンパクトにすることで対応できます
J A 窓口	玄関ロビーの一部を改修（仕切り）し、部屋を設け、窓口として整備します。
防災備蓄倉庫	1階倉庫、待機室、無線室を防災備蓄倉庫として整備します ⇒無線室の放送設備を宿直室へ移転、待機室・無線室の改修（壁の張替・流し台の除去等）することで対応できます。

ii 大和保健福祉センターやまつつじ（デイサービスセンター部分）レイアウト

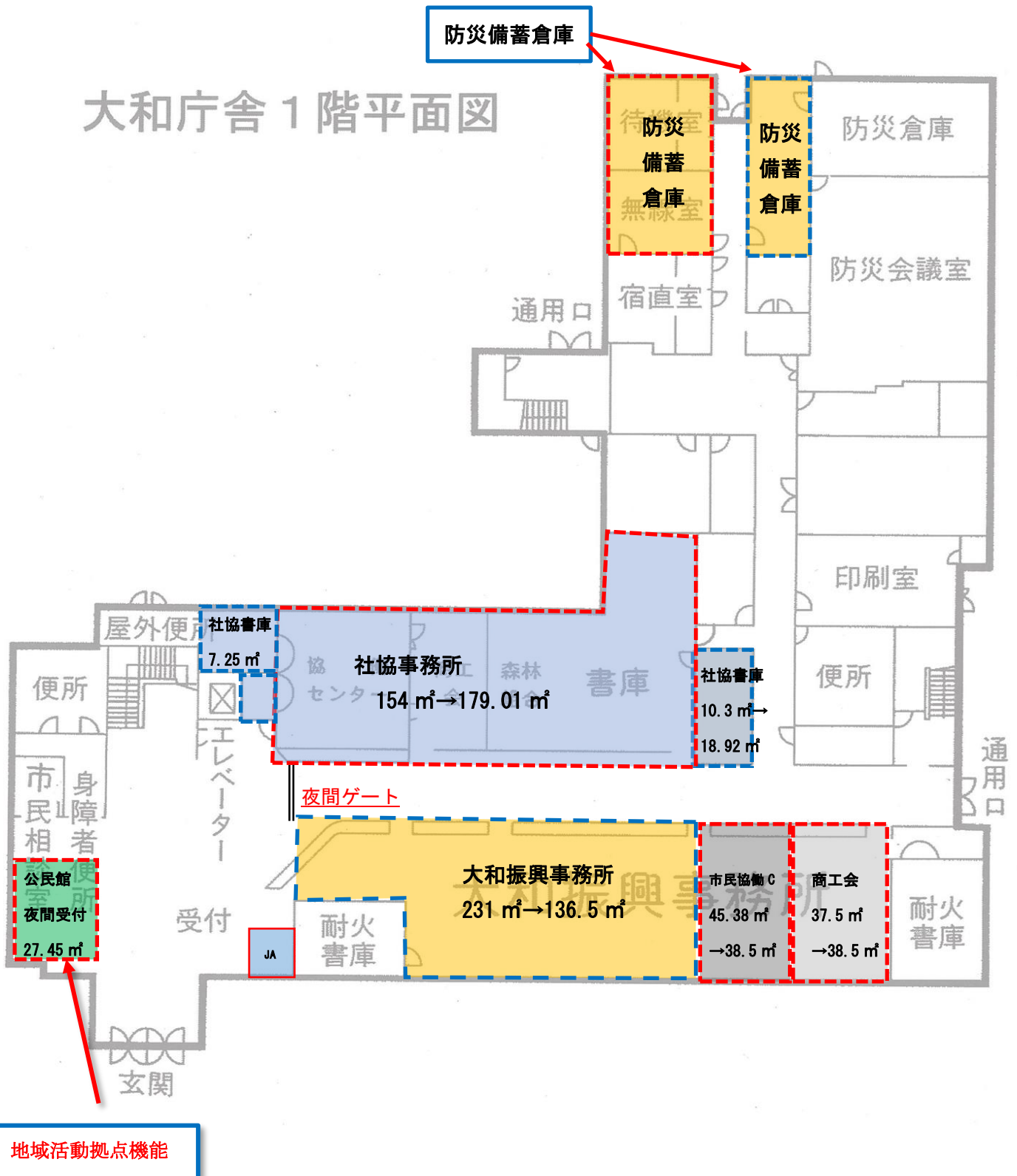
分類	レイアウト概要
独立玄関の整備	現渡り廊下を玄関と位置づけることで対応可能です。

大和庁舎施設レイアウト変更案【平面図】

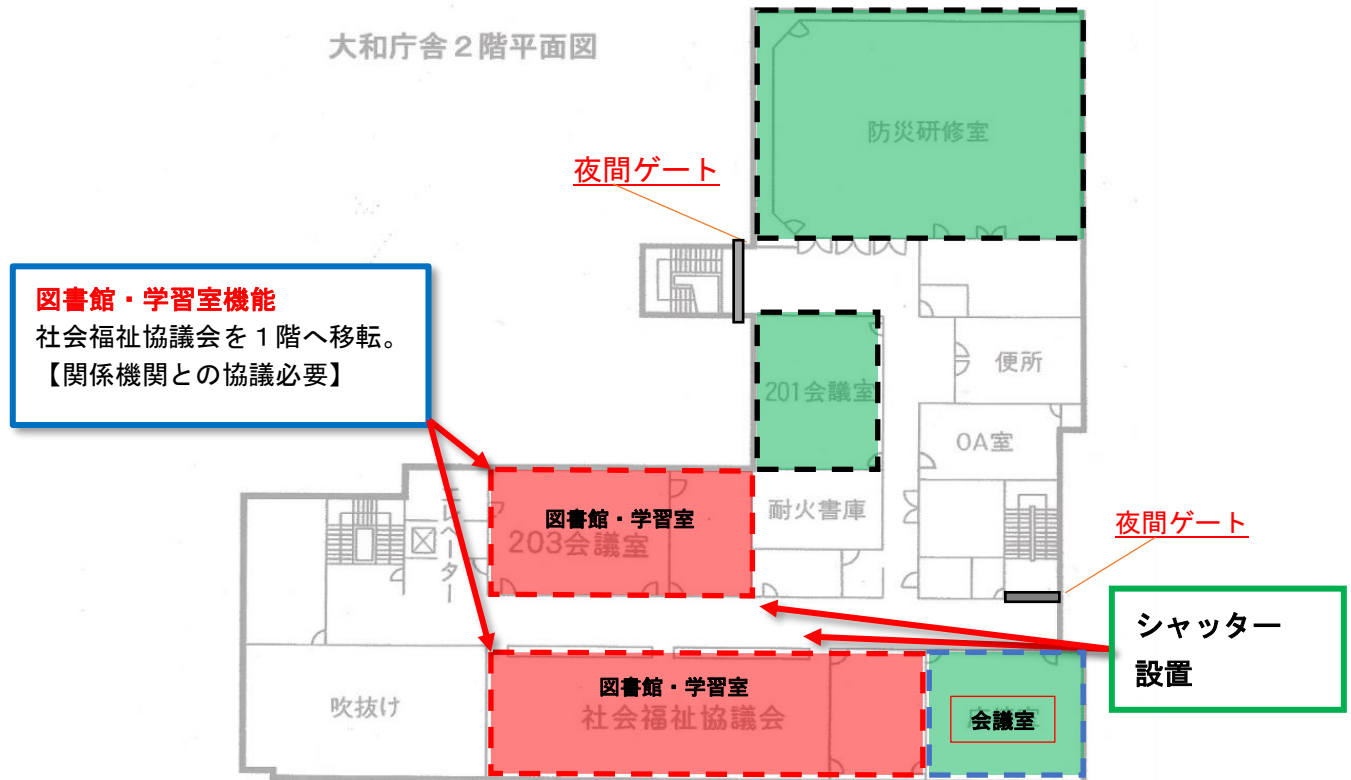


(注) 社協 = 社会福祉協議会

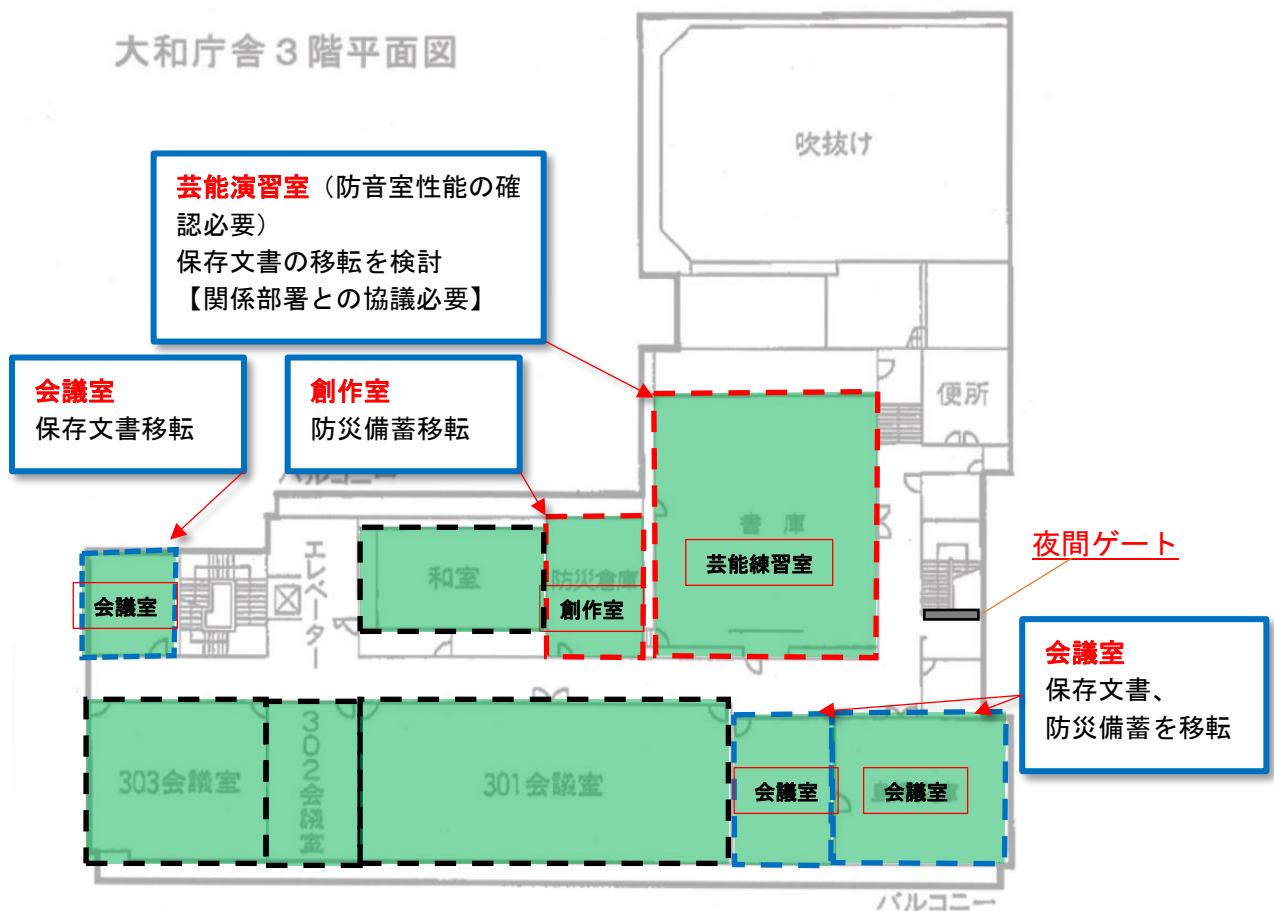
大和庁舎 1 階平面図



大和庁舎 2 階平面図



大和庁舎 3 階平面図



大和保健福祉センターやまつつじ施設（デイサービスセンター部分）

レイアウト図



7. エリア再編に向けてのロードマップ

施設名等	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度～R10年度
エリア再編行動計画の作成	→→→	→→→	→		
移転にかかる地域・団体との協議・合意形成	→	→→→			
① 郡上市役所 大和庁舎					
・施設のあり方の検討	→→→	→→→	→→→		
・改修基本設計				→→→	
・改修実施設計・改修工事					→→→
・条例改正					→→→
・機能移転・利用団体移動				→→→	
・業務開始					→→→
② 大和生涯学習センター					
・機能移転準備				→→→	→→→
・後利用の検討			→→→	→→→	→→→
・条例改正					→→→
・施設取壊し					→→→(R18以降)
③ 大和生きがいセンター					
・機能移転準備				→→→	
・後利用の検討				→→→	→→→
・条例改正				→→→	
・施設取壊し					→→→
④ 大和保健福祉センター やまつつじ					
・機能移転による改修内容 の検討・協議			→→→		
・改修工事				→→→	
・条例改正				→→→	
・機能移転・利用団体移動				→→→	
・業務開始					→→→
○まちづくり拠点となる機能強化の検討	→→→	→→→			新体制への移行
○地域経営の仕組みづくり		→→→	→→→	→→→	新体制への移行
○生涯学習拠点の整備		→→→	→→→	→→→	新体制への移行
⑤ 大和北小学校 ⑥ 大和南小学校 ⑦ 大和第一北小学校 ⑧ 大和西小学校 ⑨ 郡上偕楽園					
・公的利用調査		→→→	→→→		
・地域利用等公的利用可能性調査		→→→	→→→		
・民間活用検討			→→→	→→→	→→→
・サウンディング調査			→→→	→→→	→→→

8. 施設の再編に向けて

施設の耐震化・老朽化に伴う安全性の確保と「小さな拠点とネットワーク」における「地域運営の仕組みづくり」の観点から、大和生涯学習センターと大和庁舎、大和保健福祉センターやまつつじ（保健センター部分）を、また、施設の老朽化・狭隘化対策と子育て支援の機能強化の観点から、大和生きがいセンターと大和保健福祉センター（デイサービスセンター部分）を対象に、機能・施設の再編の方向性を整理しました。検討の中では、今般方向性が決定された郡上偕楽園と、統廃合が進められている学校施設の活用も俎上に挙げ一定の方向性を整理しました。

しかしながら、この機能移転を含む公共施設の再編・再配置を進めていくうえでは、以下の課題への対応と同時に、地域住民・関係者との合意形成が重要となります。

諸課題に対する方向性（下記）とスケジュールを含むロードマップ（上記）を整理しています。

今後、これら課題の整理に取り組むとともに、関係団体等と協議のうえ合意形成を図り、再編に取り組めます。

（１）諸課題への対応

① 大和庁舎の長寿命化対策

大和庁舎は新耐震基準で建設した建物ではあるものの、建築から 30 年以上が経過し、老朽化が進行しています。また、空調等設備についても耐用年数が過ぎており、更新の必要があります。生涯学習機能の移転に合わせ、施設や設備の改修、更新を実施し、長寿命化を図る必要があるため、施設改修計画の中で対応します。

② 大和庁舎のバリアフリー化

大和庁舎が各種機能を備えた拠点施設となることで、多様な住民が利用することになります。現在、駐車場から玄関までのスロープ、1 階に障がい者トイレ、エレベーターの設備があり、1 階の市民相談室を授乳室と位置付けています。

施設の機能が高まり、幅広い住民の利用へ向けて、バリアフリー化として、以下の改修が必要となることから、施設改修計画の中で対応します。

- ・ 1 階：多目的トイレ、専門の授乳室、既存トイレへの手すり設置、廊下壁への手すり設置
- ・ 2 階：多目的トイレ、既存トイレへの手すり設置、廊下壁への手すり設置
- ・ 3 階：既存トイレへの手すり設置、廊下壁への手すり設置

③ 大和庁舎書庫・倉庫の整理

大和庁舎 3 階の書庫は、旧大和町役場の議場を転用して利用しており、現在は、大和地域の公文書に加え市全体の公文書（30 年保存文書）を保存しています。また、3 階資料室の一部と、1 階の倉庫にも大和地域の公文書等を保存しており、その他、2 部屋を防災備品庫として利用している状況です。

生涯学習センター機能向上にあわせ、これらの部屋も用途を変更する必要があることから、下記移転案をもとに整理を行いますが、3 階書庫の文書の移転先が未定であることから、市全体の公文書管理のあり方について、移転先の施設も含めて検討します。

【公文書】

部屋	面積	文書量		移転先（案）	対策
3階書庫 （本庁分） （194.8㎡）	W1.76*D0.6*3列*15棚 W1.8*D0.48*1列*11棚 57.0㎡	A4×B4	946箱	検討	
		A4×A4	1,505箱		
		A4×A3	5箱		
3階書庫 （大和分） （12.7㎡）	W1.76*D0.6*3列*1棚 3.2㎡	A4×B5	159箱	北車庫内倉庫 （31.36㎡）	・倉庫の収納物（タイヤ・ 体育用具）の移転・破棄 ・移転先：車庫内 ・現在使用棚の移動
		A4×A4	40箱		
		A4×B4	22箱		
3階資料室 （一部）	1.6㎡	図面ケース	274冊		
		A4×B4	23箱		
1階倉庫 （26.2㎡）	26.2㎡	A4×A4	2箱		
		A4×B4	170箱		
		図面筒	約1,000本		
		本	A4×A4 10個分		

【防災備品】

部屋	面積	物品		移転先（案）	対策
旧島津文庫 （60.4㎡）	W0.9*D0.26*26棚 6.1㎡	水	348箱	1階倉庫・待機室・ 無線室 （71.2㎡） 一部、道の駅北側 防災備蓄倉庫	・倉庫の収納物の移転 ・現在使用棚の移転
	W0.9*D0.26*2棚 0.5㎡	主食	82箱		
	W0.9*D0.26*1棚 0.2㎡	副食 （缶詰）	67箱		
	W0.9*D0.26*2棚 0.5㎡	副食（汁）	36箱		
	W0.9*D0.26*1棚 0.2㎡	あんしんばん	10箱		
	2.1*0.75 1.6㎡	トイレットペーパー	66箱		
	0.4*0.4 0.2㎡	紙おむつ	6箱		
	1.75*0.65 1.1㎡	紙おむつ	20箱		
	3.45*0.9 4.1*0.9 3.5*0.9 9.9㎡	段ボール 間仕切り	96個		
305会議室 （37.5㎡）	W1.75*D0.75*3棚 3.9㎡	物品各種		1階倉庫・待機室・ 無線室 （71.2㎡） 一部、道の駅北側 防災備蓄倉庫	・倉庫の収納物の移転 ・現在使用棚の移転
	2.65*1.25 3.3㎡	段ボール ベッド	39箱		
	2.4*1.8 4.3㎡	毛布	63箱		
	1.0*1.3 1.3㎡	カーペット	10包		
	0.9*0.65 0.6㎡	防護服	4箱		
	3.0*0.75 2.3㎡	ブルシート	39包		
	1.25*1.05 1.3㎡	発動機	9台		
	1.25*0.5 0.6㎡	投光器	10個		
	0.55*0.5 0.3㎡	ストーブ	5個		
	6.0*1.25 7.5㎡	極厚床マット	29箱		
	0.9*0.9 0.8㎡	多目的テント	5張		

④ まちづくり拠点となる支所機能の強化と地域運営の仕組みづくり

支所は、地域の行政サービス機関として、また、地域防災、地域振興の機能に加え、今後は、地域のまちづくり拠点機能を担い、地域づくり・地域経営のコーディネーターとしての役割を果たしていくことになります。

また、支所には、まちづくりや地域活動の主体となる「地域活動組織」の事務局機能を設置（スペースの提供）し、地域課題の解決に連携・協働して取り組むことになります。別途進める「小さな拠点とネットワーク」における「地域運営の仕組みづくり」を進める中で、支所の役割と体制のあり方について検討するとともに、地域活動を支えるための支援策について検討

します。

なお、地域活動組織の事務局は、地域経営の観点から、地域自治組織の自立した運営が望ましく、事務局支援の仕組みを含め、地域協議会等と協議し、組織化を図ります。

⑤ 生涯学習センターとの複合化後の大和庁舎の管理運営手法の検討

現在の大和庁舎の管理運営は、市が直営（支所）で行っており、社会福祉協議会、商工会、NPO 法人コミシス郡上から、使用料、光熱水費を徴収しています。

大和庁舎を生涯学習機能の拠点とすることから、庁舎の夜間利用に対する体制の整備が必要になります。管理体制については、委託を含め関係部局と協議・検討していきます。

なお、大和庁舎も含めたエリア全体の施設の管理運営については、包括的な管理運営について検討し、効率的に進めます。

⑥ 子育て拠点となる大和保健福祉センターやまつつじの管理運営

現在、大和保健福祉センターやまつつじの管理運営は、施設の一部（デイサービスセンター部分）を指定管理者制度で、費用負担なども区分して管理しています。

指定管理者制度により管理している部分へ子育て拠点機能を移転すること、また、保健センター部分についても業務に支障のない範囲で講座等でも利用することから、施設全体の管理運営手法について検討します。

⑦ 大和地域の生涯学習の拠点としての事業展開と公民館のあり方

生涯学習機能が大和庁舎に移転することにより、これまでの市民の学習活動や趣味・生きがい活動の場に加え、地域課題を解決する学習活動・実践活動の拠点として、大和地域の課題の発見・整理と解決に向けた学習活動の支援を大和振興事務所と連携を強化して進め、地域づくり、まちづくりのコーディネーターとしての役割の一翼を担うことになります。

別途進める「小さな拠点とネットワーク」における「地域運営の仕組みづくり」を進める中で、支所の役割と体制の検討にあわせ、生涯学習事業のあり方、職員体制のあり方について検討するほか、公民館活動とまちづくり活動の目的や内容を整理したうえで、今後の公民館のあり方について全庁的な視点から検討します。

（２）関係団体等との協議

① 既利用団体との移転協議

現在の大和庁舎には、施設内に市が設置する市民協働センターのほか、社会福祉協議会、商工会、NPO 法人コミシス郡上、指定金融機関が入居しています。

生涯学習機能の複合化に伴い、現在の利用団体等の執務スペースを変更する必要があるため、これらの移転については、各団体と十分協議していきます。特に社会福祉協議会、市民協働センターの配置は、全庁的な視点で検討、協議していきます。

② 市民・地域との合意形成

本行動計画を着実に推進していくためには、市民・地域との合意形成が不可欠です。

令和５年度以降、大和地域の皆さんへの説明会を早期に開催するほか、下記の諸団体との協議をきめ細かく進めます。

団体等	説明・協議内容
自治会連合会大和支部	行動計画の内容と今後の進め方など
大和地域協議会	行動計画の内容、地域活動拠点の設置と事務局体制の整備、各種支援など地域運営の仕組み
利用団体・既入居団体	行動計画の内容、施設の利用方法、地域づくりへの参加など
地元自治会（剣区・徳永区）	行動計画の内容と今後の進め方など
市役所関係部署	行動計画の内容と今後の進め方など

参考：庁内検討体制

項目	分野	課名
責任課 （取りまとめ）	全体調整、地域・団体等調整、 施設運営管理統括	大和振興事務所 振興課
主管課 （施設利用）	公民館、生涯学習、図書館	教育委員会事務局 社会教育課
	健診等	健康福祉部 健康課
	デイサービス	健康福祉部 高齢福祉課
	社会福祉協議会	健康福祉部 社会福祉課
	子育て支援	健康福祉部 児童家庭課
	市民協働センター	市長公室 政策推進課
関係課 （全体調整）	財政計画、予算	総務部 財政課
	公共施設管理	総務部 契約管財課
	公文書管理	総務部 総務課
	適正配置計画の進捗管理	企画課（必要に応じて公共施設アドバイザー）

■郡上偕楽園施設を再利用する上での施設上の課題

施設本体

- 雨漏り箇所複数有り（1号室、Bユニット廊下、15号室）
雨漏りの原因となる場所の特定ができない。同様の構造の、やまつつじの天窓の修繕の際には約700万円の改修費が必要となっており、高額な財政負担が生じる。
- 地下ピット部の給湯管、給水管で漏水の可能性が高い。
現地確認により、床の点検口から水蒸気を含んだ水（温水と思われる）が常時噴き出しており、通常であれば、水蒸気が噴き出すことはないため修繕が必要。
- 旧棟との切り離しに伴い、新館棟をつなぐ自動ドア付近の改修を要する。
現状は自動ドアになっているものの、室内用の自動ドアと見込まれることから、屋外用の自動ドアへの変更が必要。
- 防火設備に関すること
防火設備の通報装置が旧館棟事務所にあり、新館棟事務所への移転整備が必要である。

機械設備、電気設備等

- 冷暖房機器（発生機+送風機）更新
平成6年整備で、更新時期（15年）を大きく超えており、修繕が発生した際には補修部品がないことから再利用に際しては全面的な更新が必要。
- 給湯ボイラー
平成6年整備で、更新時期（15年）を大きく超えており、修繕が必要な際に補修部品があるかどうか不明なことから全面的な更新が必要。
- 地下タンクのメンテナンス（又は取壊し）
「電気防食」装置があるが、現状稼働させていない。消防設備点検の点検項目に入っていないことから未点検で、装置を稼働する必要がある場合は点検や整備が必要。
- ガス保管室（旧館棟ショート西側）の取壊しに伴う改修
全館へガスが送られていることから、ガスの配管を再整備する必要。
- 高圧受変電設備の更新
高圧受電設備が必要かどうか検討し、機器の更新も必要（約500万円）。
- 新館棟への水道仕切弁が不明
新館棟正面玄関前道路の舗装面の下と思われ、アスファルトを除去するなど水回りの工事で大規模な財源が必要。

内部設備(新館棟)

- 南北トイレの改修

介護を前提としたトイレ設備のため、個室、ドア等がついておらず、改修を要する。

- 電話交換機等の改修

旧館棟機械室、事務室内に電話の引き込み、主装置があるため、移設（新設）を要する。

■現施設を再利用する上での立地上の課題

- 施設へ入る進入道路の安全性

施設への進入道路は堤防道路になっており、道幅は狭く、ガードレールも設置されていないため、施設利用者の安全性が危惧される。

- 大型車等の通行

大型車は、県道側の和合橋を使用すれば駐車場に入ることができるものの、堤防道路上のすれ違いは難しく、駐車場についても、本館を取り壊さないと必要な台数が確保できない。

- 大雨時の対応

浸水想定区域内にあり、大雨時には水害の発生が危惧される。